

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【公開番号】特開2006-14637(P2006-14637A)

【公開日】平成18年1月19日(2006.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2006-003

【出願番号】特願2004-194599(P2004-194599)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

C 0 7 K 7/06 (2006.01)

C 1 2 N 5/06 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

C 0 7 K 7/06 Z N A

C 1 2 N 5/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月25日(2007.6.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0087

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0087】

そこで、395bp長のPCR産物の3'末端部分に相当するcDNAクローン 214.2の塩基番号432～479の塩基配列に基づいた推定アミノ酸配列から、10種類の9アミノ酸ペプチドを設計した(図6)。これらのペプチドは、自動ペプチド合成によって合成した。続いて、これらのペプチドの各々を、HLA-A24発現細胞であるC1R-A24に添加して培養することにより、その細胞上のHLA-A24分子上に各ペプチドを提示させた。この各ペプチドを提示した細胞と、細胞障害性Tリンパ球クローンF₂b/5とを混合培養した後、各ペプチドに対するF₂b/5の細胞障害活性を評価した。その結果を図7に示す。細胞障害性Tリンパ球クローンF₂b/5は、ペプチド3(NYGFQIHTK)を提示した細胞に対して高い細胞障害活性を示し、一方他のペプチドを提示した細胞に対しては全く細胞障害活性を示さなかったことから、このペプチド3が、細胞障害性Tリンパ球クローンF₂b/5が特異的に認識する腫瘍抗原ペプチドであることが証明された。